

始める人々へ、つぎが大変重要だ。



「みはら」復活計画

三原は、戦後企業城下町として栄え、山陽新幹線・山陽自動車道・広島空港・三原港に象徴されるように、山陽と四国を結ぶ交通の要衝としての機能を果たしてきました。今年、今治行き高速艇航路が廃止され、JR三原駅においても、「ひかり」が停車しませんが、三原は「瀬戸のインターチェンジ」とはいえない状況ではないでしょうか？

来年5月には、西瀬戸自動車道(瀬戸内しまなみ海道)が開通し、尾道と今治が橋で結ばれます。そしてこの地域が日本全国から注目をされるようになります。しかし、現在の「みはら」の状況で、人を引きつける魅力があるのでしょうか。まず、「みはら」が日本中や世界に誇れるもの、たとえば瀬戸内海の風景・やっさ祭りなど宝を探し磨きをかけ、新しい発想で魅力を創造しなければなりません。これには、市民の英知を結集して早急と考えて行く必要があります。また三原バイパスなどの交通網を整備し「瀬戸田・三原架橋(仮称)」を早期に実現する事で空港からの観光ルートを確立し、臨空の工業団地を結び、物流の拠点として企業誘致を図り、雇用の創出と観光開発の両面でこの地域にいや広島県に経済効



カレーライス会

シリーズバードアイ 未来への鳥瞰図 総集編

(社)三原青年会議所理事長 勝村 恵明

1998年1月より(社)三原青年会議所では、様々な角度から三原のまちづくりを考え、運動を展開してまいりました。皆さんの目には、自分たちの住んでいるまち「みはら」は、どの様に写っていらっしゃいますか。21世紀を目前に控え、我々の廻りには、政治・経済・環境など解決して行かなければならない問題が山積しています。これらの問題を私たち市民が、できることから一步一步解決して行くことがますます重要になってきます。一人ひとりの力は小さくとも、一人ひとりのネットワークを活かし、市民・行政・企業・各種団体が一体となって、市民が生き生きと生き甲斐をもち安心して暮らせ誇りにできるまちを創造して行かなければなりません。そのためには、理想とする未来の「みはら」の都市像を明確に描く必要があるでしょう。そこで今回は「未来のみはら」を考えてみたいと思います。

果をもたらすことでしよう。この様に経済的自立できる魅力ある都市となることで、保健・福祉・医療・行政サービスやいろいろな分野で周辺「まち」と連携を深め将来的には、生活圏での効率化を図るため合併し10万都市となることも視野に入れなければいけないと思います。自己責任原則に基づく自立した都市になって行かなければこれから到来するであろう地方分権社会における都市間競争に生き残れないでしょう。

めざせ！「エコタウンみはら」

私たちの住む「まち」は、海も山もあり比較的環境に恵まれていると思いがちですが、これまで経済優先で大量生産・大量消費・大量廃棄を繰り返した結果、地球規模で環境破壊が進行し、私たちの廻りにも、山が枯れ・海砂問題に象徴される海洋汚染や破壊、またゴミ問題やダイオキシン問題など目に見えないところで、私たちの体に忍び寄って来ています。これを解決するためには個人一人ひとりの意識改革が必要となります。今年一年(社)三原青年会議所では、リサイクルで未来クル憩談会の方々と一緒に、ペットボトルの自主回収を始めました。これも市民皆様のご協力のおかげで徐々に浸透して参りました。この様に個人一人や団体だけでは不可能なことも、ネットワークする事で一歩前進できたと思います。また「みはら」には、桜山に



リサイクルで未来クル憩談会

桜を植えたり、沼田川を掃除したり、コスモスを植えたりする運動をしている人たちがいらっしゃいます。これらの運動が全体的な市民運動として育ち連携し、環境にやさしいまち「エコタウンみはら」を、市民自ら実践し創造して行かなければならないと思います。子どもたちに今以上の「みはら」を受け継いでゆくために...



未来の「みはら」を変える 青少年教育

最近、子どもたちが「キレル」と言われるように考えられない事件が起きています。これも全て私たち大人の社会のひずみが鏡の様に子どもたちに写っているのではないのでしょうか。(社)三原青年会議所でも「まち探検」を通して、地域の人のふれあいやまちの歴史文化を知ること「まち」に誇りや愛着を感じてもらえる様に運動してきました。今後、教育は学校だけでなく、家庭・地域の人がネットワークして行く必要があります。そして、福祉活動やボランティア活動を教育に取り入れ、学校から飛び出て地域全体で子どもを育てたり、地域の人が伝統や文化を子どもたちに教えたりできる仕組みが必要です。これにも先生・地域の人・保



わんぱく相撲

護者のネットワークが不可欠です。未来の地域を担える人づくりをすることでまた未来の「まち」も変わるでしょう。



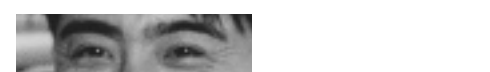
人に優しいまち「みはら」

私たちの「まち」にも、急速に高齢社会が到来しつつあります。それに対応するため介護保険が2000年には導入されます。また、三原市総合福祉健康センターも駅前に開設し、在宅介護支援センターも着々と整備されつつあります。しかし、本当に市民社会を支えてゆくのは、箱もの(ハード)ではなく、人と人との支え合いによる相互扶助の精神に則ったボランティアや市民・行政・企業・各種団体をつなぎ、問題に対して効率的かつ総合的にコーディネートできるシステム(ソフト)が重要になってきます。すなわち、既存にある組織や人をいかにネットワークできるかということです。そのためには、保健・福祉・医療の連携はもちろんのこと、ボランティアの育成・ボランティア同士のネットワーク強化が求められます。そして、行政サービスの手の届かない部分を効率的に市民ボランティアが埋めてゆける、それが市民の生き甲斐づくりにも役立てば素晴らしい社会になると思います。この社会を実現するためには、市民・行政・企業・各種団体に精通したコーディネーターが必要です。また、三原のみならず全国・世界のネットワークを活かせる人材が欲しいものです。

「みはら」を元気にする 市民活動とネットワーク

これまで都市戦略・環境に優しい・青少年育成人に優しいと言う視点で未来を考えて来たが、21世紀の市民社会のキーワードは「市民活動」と「ネットワーク」なのではないでしょうか。これから「市民活動」を育て・市民同士のネットワークを強化することで、これまでの経済成長重視の価値観から脱却した「生き甲斐」や「楽しさ」を重視した「市民が主役のまち」がで

きると思います。市民それぞれの「夢」・「やりたい」が自己責任原則のもとかなえられる、かなえられそうなく「まち」になれば、なんだが「ワクワク・ドキドキ」する元気が「みはら」が実現すると思います。そのために、「世田谷まちづくりセンター」の様な「NPO支援センター」を設置し、市民活動を支援しネットワークを強化して行くべきでしょう。それを運営するための「まちづくりファンド(基金)」も必要となるでしょう。



「みはら」の総合力

現在ある「まち」の姿は、ここに住み着いてきた私たちの先人たちが作り上げてきたものです。新幹線駅・空港・JRの高架化・県立保健福祉短期大学などがそうです。未来の「みはら」は、いったい誰が創ってゆくのでしょうか。それは、現在暮らしている私たちなのです。皆さんの創意と工夫・英知を結集し、市民の皆さんがまちづくりのキャストとなり大きな「夢」を演じて行くことで未来の「みはら」が切り開かれてゆくのではないのでしょうか？そのためには傍観者とならず、「まち」に対し自分のできることを小さなことから始めて行くことで大変重要です。そして市民一人ひとりの小さな力の結集すなわち「みはら」の総合力が21世紀への鍵なのです。さあ！みんなで「夢」を描き、「未来」を予測し、英知と勇気を持って暮らして良かった。暮らしたいまち「みはら」を創造しようではありませんか。

「夢・未来・創造」 LOOKING FOR TOMORROW

私たち(社)三原青年会議所は、36年間「みはら」の「まちづくり」や「人づくり」のために活動して参りました。今後とも、市民の皆さんと共に「明るい豊かなまち」を目指して、頑張っ参ります。尚一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

モニターの皆さんと、有志の方の意見総まくり "みはら"について私はどう思う!! みんなの意見総集編

「みはらだいすき」に賛成！ 三原市にも「三原の歴史や文化財」を保護するグループがあります。スーパースタッフの頑張りを感じている1年ではありましたが、私自身、福山の丸の内から、縁あって現在八幡町に移り住んでいます。南北の行政の差を感じた10年前に比べれば、随分この地も変わりました。三原が今後とも総合的に発展する為には東西南北隔てる事なく、その地の持ち味を行政や市民の手で活かしてやる事が必要です。きっと三原は、もっと面白くなると思います。

三原はもっと面白くなる！ モニターとしては、決して熱心な意見を寄せたわけでもありませんが、「やっさもっさ」の頑張りを感じている1年ではありましたが、私自身、福山の丸の内から、縁あって現在八幡町に移り住んでいます。南北の行政の差を感じた10年前に比べれば、随分この地も変わりました。三原が今後とも総合的に発展する為には東西南北隔てる事なく、その地の持ち味を行政や市民の手で活かしてやる事が必要です。きっと三原は、もっと面白くなると思います。

スタッフ作りが大切です！ やっさもっさのような広報誌は長く続ける事に意義があるのではないのでしょうか。作っている皆さんが楽しんでるか？さらに色々な意見が語れる(例えば多職種であったり、世代が幅広かったり)スタッフの陣容であるか？それがポイントだと思います。しかし拝読し、完成度は高いと感じました。目先の企画物より、そうしたアイデアが出し合えるスタッフ作りこそ何かを作る時には肝心だと思います。

三原の良い点・悪い点！ 定年後、妻の故郷である三原市に定住し早2年、海・山・川に恵まれた気候温暖の地で落ち着いた生活を送っています。広島空港・新幹線・三原港等の交通アクセスは最高ですから、旅行好きの夫婦には誠に都合がいい。又、ゴルフを趣味とする我々には30分以内で行く事の出来るコースが数箇所もあり、東京近郊と比較すればまさに天国です。残念な点は子供や孫がみはらを訪ねた際にいきたい美術館や遊園地が無い事。もう一つは、交差点での車優先などの運転マナーがずこぶる悪い事です。

モニターに参加して良かった！ 人はとすると独善に陥り易い。人の意見に耳を傾ける。自分が正しいとは限らない。40代とは人生に焦りを感じる時なかもかもしれませんが、自分はこのままで良いのだろうか？という状態の中で「モニター」に参加しました。毎月のモニターアンケートを充実させる為、新聞に目を通すようになりました。頑張っ参って参っている事が、はた目には浮いた存在であっても行動する事の大切さを学びました。1年間色々とうございました。

市長の氏名を知らない人が居られます！ 御紙を通読して感じたのですが、最近JCとしての主張が前面に出てくるようになり、大変結構だと思います。広域合併についての論議も同感です。行政の対応が無いなら、JCが行動を起こさざるを得ません。三原市に住んで居ながら、市長の氏名を知らない人が多い、という話を聞いた事があります。それだけ行政の指導が市民に浸透していないという事でしょう。とにかく、JCの皆さんのよりいっそうの前進を期待致します。

「みはら写真集」の出版を！ 私の名刺は市役所から頂戴した「瀬戸の多島美・筆影山」が印刷してある物です。初対面の方に手渡すと、必ず三原の話題に花咲きます。出張先でも1枚の名刺の真写から「三原は、景色・交通の便が良いし、食べ物も旨いし、人情に厚く、名所旧跡の保存も良い...」とお褒め頂きます。三原には沢山のアマチュアカメラマンがいらっしや、素晴らしい作品を数多く残していらっしゃいます。そこで「三原の写真集」を発行してはいかがでしょうか？良い三原土産になると思いますが...

生き生きと住みよいまちになるように！ 貴紙はこれまでに未来を見据えて、色々な提言をされてきました。環境問題を始め、まちの活性化、あらゆるイベントへの協力等...、積極的に取り組んでおられる事に敬意を表すと共に、生き生きと住みよいまちになるように、今後とも三原に住むすべての人の市民意識が高まるよう、活動をされる事を願い、心から声援を送りたいと思います。「ガンバッテ下さい！」

Advertisement for 'Bird's Eye' (BIRD EYE) featuring a grid of logos for various local businesses and organizations in Sanjira, including restaurants, shops, and community groups.